

《担当者名》 太田 亨 森谷 満(セ)

【概要】

医学の発展とともに日々変化していく医療の実際を学ぶためには、その基礎をなす内科疾患についての理解を深めることが重要である。このため内科疾患の病因、病態生理、症候、診断、検査、治療に関する知識を系統的に修得することを目標とする。

【学修目標】

以下の疾患（群）について病因、病態、診断および治療などを説明できることを目標とする。

高血圧、糖尿病、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病について概説できる。

アレルギー、自己免疫疾患、感染症、血液疾患などについて概説できる。

心不全などの循環器疾患、肺気腫などの呼吸器疾患などについて概説できる。

バセドウ病などの内分泌疾患、腎不全などの腎・泌尿器疾患などについて概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内科学総論、生活習慣病、代謝性疾患	本邦の三大死因、および生活習慣病（糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドロームなど）	太田 亨
2	内分泌疾患	内分泌器官による生体機能調節、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など	太田 亨
3	消化管疾患	胃十二指腸潰瘍、消化管の悪性腫瘍、炎症性腸疾患など	太田 亨
4	肝胆膵疾患	肝炎、胆石、胆嚢炎、膵炎、ならびに肝胆膵悪性腫瘍など	太田 亨
5	血液疾患	造血・止血凝固の機序、造血障害、凝固障害、血液系腫瘍性疾患など	太田 亨
6	心身症	心身症について	森谷 満
7	心身症	心身症について	森谷 満
8	アレルギー、自己免疫性疾患	免疫システムとアレルギーの機序、リウマチ、SLEなどの自己免疫性疾患	太田 亨
9	感染症	微生物学総論、細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症など	太田 亨
10	呼吸器疾患	呼吸障害、肺炎、肺水腫、肺気腫、肺腫瘍、気管支喘息など	太田 亨
11	循環器疾患	心不全、不整脈、虚血性心疾患、弁膜症、心奇形など	太田 亨
12	腎疾患	腎機能の概説、腎不全、急性、慢性腎炎など	太田 亨
13	内科学の総合知識 1	悪性腫瘍、白血病	太田 亨
14	内科学の総合知識 2	老化、廃用症候群	太田 亨
15	内科学の総合知識 3	全体のまとめを行う。	太田 亨

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（マークシート形式）100%。

【教科書】

浅野嘉延 編 「なるほどなっとく！内科学 第2班」南山堂 2020年

【参考書】

矢崎義雄 他 編 「内科学第10版」朝倉書店 2013年

橋本信也 編 「エキスパートナースM00K13内科疾患看護マニュアル」照林社 1993年

伊東進 他 編著 「コメディカルのための内科学」 医学出版社 2006年  
川村雅文 著 「系統看護学講座成人看護学 呼吸器」 医学書院 2015年  
吉岡成人 著 「系統看護学講座成人看護学 内分泌・代謝」 医学書院 2015年  
岩田健太郎 著 「系統看護学講座成人看護学 アレルギー膠原病感染症内分泌」 医学書院 2016年

**【学修の準備】**

参考書などで、事前に内容を把握しておくこと。予習（20分）

配付資料等は、講義終了後に必ず復習しておくこと。復習（20分）

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

- ・心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
- ・社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
- ・社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

上記に掲げる心理学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

太田 亨(医師)、森谷 満(医師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。